

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2008 年 6 月 4 日 (水) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4,5 組+理系選択

Edited by K.Kataoka ©

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので，それぞれ正しく記入し，マークしなさい。
 - 学年，組，名前を記入する。
 - 学年，組の該当個所をマークする。
 - 出席番号をマークする。(10番以上は10の位と1の位の2カ所)
 - 男女の欄をマークする
 - 1.2.3枚目のところはマークしない。
 - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
 - 機械の読みとりミス確認のため，解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は，採点できないことがあります。
- 4 試験終了後，問題冊子は持ち帰りなさい。

問3 文中の下線部(b)に関する記述として間違いの含まれるものを、次の ~ の中から一つ選べ。[3]

ルース・ベネディクトは著作『サモアの思春期』の中で、サモア諸島における思春期の少女達には青年期特有の不適応行動等は見られなかったと報告している。

フィリップ・アリエスは著作『子供 の誕生』の中で、ヨーロッパ中世においては教育という概念も、子供時代という概念もなかったことを示した。

エリクソンは人生の周期を8段階に分け、青年期の発達課題をアイデンティティの確立であるととらえた。

レヴィンは相互に対立的な集団に同時に所属することによって、二重の価値に引きずられて行動様式が一定しない人をマージナル・マンと呼んだ。

問4 ルソーの教育論に描かれている記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[4]

前途は遠い。そして暗い。然し恐れてはならぬ。恐れない者の前に道は開ける。行け。勇んで。小さき者よ。

幼児が「歩ける人」になることは、身体の支配と文化的な意味が一致し、機能の喜びと社会的な承認とが一致する体験を通して、自己評価を高める発達段階の一つである。

われわれはいわば二度生まれる。一度は生存するため、二度目は生きるために。一度は人類の一員として、二度目は性をもった人間として。

人生は絶えず、意味を実現するなんらかの可能性を提供しています。どんなときでも、生きる意味があるかどうかはその人の自由選択にゆだねられています。

B 青年期には、青年はよりよい自分を実現していこうとして、自分と自分の周囲に対して「自分はこうありたい」「自分をこう評価してほしい」という欲求をつよく持っている。自分のこのような欲求を、周囲の状況と調和させながら、どのように実現していくか見きわめることが必要となってくる。人間が自分をとりまく環境とうまく調和し、環境に適した行動をとって欲求を満たすことができることを[5]という。しかし、成長とともに行動の範囲が広がり、周囲の人間関係が複雑になるにつれて、進学や職業選択や異性との関係などにおいて 欲求が現実には満たされないことがしばしば出てくる。人間の心は、欲求が満たされないとバランスを失って不安定になり、欲求不満(フラストレーション)の状態に陥る。オーストリアの精神科医(c)フロイトは、人間の心には、欲求が満たされないときに、(d)無意識のうちに心理的な安定を保とうとして、欲求のはけ口を別に見つけて欲求不満のうめ合わせをしようとするはたらきがあると指摘している。

問5 文章中の空欄[5]に入る最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

自 足 適 応 発 達 解 消

問6 文中の下線部(c)に関連して、フロイトの学説に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[6]

意識，前意識，無意識の三つを区別し，もっとも広大な領域を占める無意識は錯誤行為や夢などの分析を通して意識化できるとした。

超自我は生まれたばかりの新生児の未組織の心の状態であり，時空間を知らぬ本能のつぼであり，快楽原則によって支配されているとした。

エディプスコンプレックスとは人が両親の双方に対して抱く主として無意識的な愛および憎悪の欲望のことであり，これを持たないことが神経症の原因であるとした。

生体の成長，維持，発展をもたらす生の本能と破壊的な死の本能との二大本能の対立を認め，前者をタナトス，後者をエロスと呼んだ。

問7 下線部(d)に関連して，防衛機制のうち昇華と合理化の例として最も適当なものを，次の ~ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。昇華については[7]に，合理化については[8]に答えよ。

本当は自分が彼のことを憎んでいるにもかかわらず，それに気付かず彼が自分のことを憎んでいるのだと思い込んでしまう。

本当はなりたかった画家になる夢をあきらめた彼女は，売れない画家としての貧乏生活をしないでよかったと思っている。

弱虫でいつも友達にいじめられていた彼が，急に服装や髪型をヤンキースタイルに変えて暴力的になってしまった。

韓国ドラマの影響を受けた彼は，銀縁めがねにマフラーを巻いて鏡の前で薄笑いを浮かべてみては喜んでいる。

子どもの頃自宅が火事になったというものすごい恐怖の経験があるが，その時の記憶だけがほとんどない。

今すぐ恋人が欲しいという熱い気持ちを受験勉強に振り替えて，大学入学後の幸せな生活を目指して努力を重ねた末，みごと合格を勝ち取った。

問 8 フロイトの弟子，ユングの学説に関する説明として**適当でないもの**を，次の ~ のうちから一つ選べ。[9]

意識の態度が外向的な人は，無意識的には内向的であるように，意識と無意識の補償作用によって，人間の心は全体的な調和と均衡を保っていると考えた。

精神病者の幻覚や妄想が古くからある神話，伝説，昔話などと共通の基本的なパターンの上に成り立っていることを認め，元型という考え提唱した。

自我によって抑圧されたり忘却されたりした個人的無意識のみではなく，人類に共通の普遍的無意識の存在を提唱した。

すべての人間に普遍的に劣等感が存在すると考え，自己の器官の劣等性に由来する劣等感と，それを補償しようとする権力への意志を重視した。

問 9 D．リースマンの思想に関する記述として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[10]

人間の欲求は欠乏欲求から成長欲求にいたる階層をなしていると考えた。

大衆社会における現代人の性格類型を，他人に同調する他人指向型として分析した。

束縛からの自由がもたらす孤独や不安に耐えきれない人間がファシズムを支持したと分析した。

性格と人間の体型との関わりを見出し，やせ形には分裂気質が見られるとした。

第2問 次の文を読み下の問い(問1～問9)に答えよ。(配点 20)

古代ギリシアの文明は、西洋思想を生んだ源泉である。すべての民族は神話の時代をもっているが、ギリシアの神話時代は紀元前 1600 年ごろのクレタ文明から 1100 年に至るころである。ギリシア人はこのころ、北方から南下してこの地域に定住した。(a)ホメロスの叙事詩『イリアス』、『オデュッセイア』は、神々の加護を受けた英雄たちの戦いの生涯を語っている。神話は、神々と人間の世界がまだ分かれていなかった遠い時代の人々の心を伝えている。彼らは神々と語り、そのことばを聞いていた。その魂の世界から、やがて「宗教」が生まれ、「哲学」が生まれてきたのである。

哲学が生まれたのは、小アジアの植民都市 [11] であった。タレス、ピタゴラス、ヘラクレイトスなどは、いずれも、小アジアからシシリーにおよぶギリシア人の植民都市で活躍した哲学者である。

彼らは自然哲学者とよばれている。彼らは万物の「始源・根源」は何であるかということ論じた。(b)タレスは、万物のもとは「水」とであると語り、(c)ピタゴラスは「数」によって秩序づけられていると説いたといわれる。ヘラクレイトスは「万物は流転する」が、それをこえた「 [12] 」が存在すると主張した。これらの自然哲学は、世界の成り立ちを神々のわざに帰した神話時代の考え方とちがって、世界の現象を客観的に観察し、その原因や状態について考えようとする合理的な態度にささえられている。このような態度を (d)テオリアという。(e)哲学はこのような態度から生まれたのである

問1 文章中の空欄 [11][12] に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|-------|--------|
| [11] | [| ミレトス | シラクサ |
| | | オリンピア | エレア |
| [12] | [| 空 気 | 無限定なもの |
| | | 永遠の火 | あるもの |

問2 下線部(a)に関して、ホメロスの作品の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[13]

人間が現実社会において踏み行すべき正義の道を、神話からのたとえ話や格言集をまじえつつ、農事暦の形を用いて語る。

王アガメムノンは一アキレウスの愛する捕虜の娘を奪う。怒ったアキレウスは以後の戦闘に加わることを拒み、パトロクロスはアキレウスの武具を借りて出撃しヘクトルに討たれる。

テーバイの都に突如襲いかかってきた疫病の原因が、先王ライオス殺害の汚れにある

とアポロンの神託によって知らされた王は、早速犯人糾明に取りかかる。その結果、殺害犯人とはほかならぬ彼自身であることを発見する。

カオス，エロス，ガイアの誕生，母神ガイアから生まれた男神たちの間にくりかえされる権力争奪を語り，最後に勝利者となったゼウスが，天上・地上・地下の世界に新しい秩序を樹立する。

問3 下線部(b)に関して，タレスについて語った次の文の著者として最も適当なものを，下の～のうちから一つ選べ。[14]

タレスは，あの知恵の愛求の始祖であるが，「水（ヒドール）」がそれであると言っている。（それゆえに大地も水の上にあると唱えた。）そして，彼がこの見解をいだくに至ったのは，おそらく，すべてのものの養分が水気のあるものであり，熱そのものさえもこれから生じまたこれによって生存しているのを見てであろう，しかるに，すべてのものがそれから生成するところのそれこそは，すべてのものの原理（アルケー）[始まり・もと]だから，というのであろう。

ブルタルコス

プラトン

ディオゲネス・ラエルティオス

アリストテレス

問4 下線部(c)に関して，ピュタゴラスについての記述として**適当でないもの**を，次の～のうちから一つ選べ。[15]

プトレマイオス1世がピュタゴラスに「幾何学を学ぶのに『原論』よりも近道はないか？」と聞いたところ，彼は「幾何学に王道なし」と答えたとされている。

ピュタゴラスによれば，魂は元来，不死すなわち神的存在であるが，無知ゆえにみずからを汚し，その罪をつくなうために肉体という墓に埋葬されている。

ピュタゴラスによれば，われわれが生と呼んでいる地上の生活は，実は魂の死にほかならず，その死から復活し，再び神的存在を回復することが人生の目的である。

コペルニクスの宇宙論やケプラーの宇宙モデルも，自然を数学的に記述しようとする方法論としてのピュタゴラス学派の思想がヒントになっている。

問5 下線部(d)に関して，「テオリア」についての説明として最も適当なものを，次の～のうちから一つ選べ。[16]（2004年センター本試験より）

テオリアとは，原理を直感的に把握する理性の働きである。

テオリアとは，主に制作活動に関わる理性の働きである。

テオリアとは，厳密な論証・推論としての理性の働きである。

テオリアとは，主に行為・実践を導く理性の働きである。

問6 下線部(e)に関して、フィロソフィアという言葉をはじめて使ったとされるピュタゴラスの考えによると、オリンピックに集まる人の中で最善の生き方をしている者はどれか、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[17]

商売に来る人

競技場を作りに来る人

勝利を目指して競技をしに来る人

見物に来る人

問7 パルメニデスの思想をあらわす記述として、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[18]

飛んでいる矢は各瞬間には静止しており、静止を積み重ねても運動は出てこない。

分割できないアトムが、空間としてのケノンにおいて運動し集合離散する。

不生不滅の四つの元素が結合したり分離したりして、世界の状態が現出する。

有るものは不生不滅、不可分、不変不動であって完結した丸い球に似ている。

問8 自然哲学者たちの後にあらわれたソフィストの一人、カリクレスは次のような議論を展開している。それを踏まえたうえで、カリクレス的な立場に合致する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[19](2001 年センター追試)

世の中の大多数の弱者（能力の劣ったもの）は、強者（能力の優れたもの）から自分たちの利益を守るために、他者より多く所有することは不正である、という平等主義的な法律や慣習をつくりだした。しかし、弱肉強食の動物の世界をみればわかるように、強者が弱者を支配し、より多く所有するのが、自然本来のあり方であり、真の正義である。

小学生の徒競走で足の速い生徒にハンディキャップをつけるのは、競争原理の否定につながり、理不尽である。

プロのスポーツ選手や人気歌手がときに数億円もの報酬をもらうのは、人間の金銭感覚を麻痺させる異常な事態である。

絵の上手な人と歌の上手な人との能力差は比較できないので、各人の優劣は客観的に数値化された学力差によって決めるべきである。

多数決原理を基本とする民主主義であっても、自分の政策を実現するためには「数の力」だけに頼らずに、少数意見にも耳を傾けるべきである。

問9 ソフィストが考える人間のアレテーとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[20]

卓越性

弁論術

知恵

浄化

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 18)

友人カイレボンが[21]に赴いて授かった、「ソクラテスより知ある者はいない」という神託に接して、彼はそれを批判的に吟味すべく、世間で「知者」と思われている人々のもとへと赴く。そこでソクラテスが見出したのは、善や美や正といった大切なことについて、本当は知らないにもかかわらず「知っている」と思いこんでいる人々の「無知」であった。対照的に、ソクラテスは自らが「知らない」と思っているだけに、他の人々より「人間的な知」において勝るかもしれない。神は謎かけされていた。そのような「人間的な知」など、[22]に比したら無に過ぎない。

しかし、(a)ソクラテスによって吟味され無知を暴かれた人々は、人前で恥を曝させられ、何よりも自尊心を傷つけられて、ソクラテスを憎む。 真実を暴き、真実を語り続けたソクラテスは、それゆえに人々の憎悪によって裁判に引き出されたのである。

「これらが、アテナイ人諸君、あなた方にとって真実であり、私は大にも小にも隠し立てせず、躊躇いもせずに語っています。しかしながら、私は、私がまさにこのことによって憎まれるということを知っており、そのことがまさに、私が真実を語っていること、ならびに、これが私への中傷でありその原因がこれらであることの、証拠でもあるのです」

ソクラテスが明け透けに語る「真実」が、裁判の場で生殺与奪を握る陪審員たちの神経を逆なでし、彼らを興奮と憤激に向かわせる。ソクラテスはしばしば、「諸君、どうか騒がないで下さい」と議場に呼びかける。自らを「知者」と呼ぶ神託を紹介し、世間で尊敬される知者たち、そして何よりも裁判に臨席する人々すべてを「無知」として告発するソクラテスに、人々は有罪、そして死刑の評決を下すのである。

しかし、まさにこの死刑判決こそが、ソクラテスが「私が憎まれること」と呼んだ事態の最後で最大の生起であり、それ自体が「私が真実を語っていることの証拠」となるのである。ソクラテスは「真実を語ることで人々に憎まれる」という真実を、法廷に現出させる。こうして、この『[23]』そのものが全体として (b)「全真実」の開示となった。

問1 文章中の空欄[21]・[22]・[23]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|-------|--------|
| [21] | [| デルフォイ | アクロポリス |
| | | アテナイ | スニオン岬 |
| [22] | [| 神の真の知 | アルケー |
| | | 無知の知 | ドクサ |
| [23] | [| 問答法 | 弁明 |
| | | アポリア | 弁論嫌い |

問2 下線部(a)に関して、ソクラテスが人々の無知を暴露する理由を説明する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[24]

人々の無知を自覚させることによって、ノモスの相対性をあきらかにするため。

人々の無知を自覚させることによって、ピュシスの絶対性をあきらかにするため。

人々の生き方を挑発することによって、善き生の吟味へと魂の目を向けさせるため。

人々の生き方を挑発することによって、ポリスの衆愚政治の悪をただすため。

問3 下線部(b)に関して、文中に示される「全真実」の開示の説明として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[25]

すべての人間が無知であるという真実を語ることによって、ソクラテスが法廷においても人々に憎まれ、結果として死刑判決を受けたという真実。

無知の自覚を持つのがソクラテスだけであるという真実が、法廷では一切認められず、真実が不正によってねじ曲げられてしまったという真実。

真実は知り得ないという真実を人々に知らせることが困難なため、人々の誤解によって死刑判決を受けるということすら正確には知り得ないという真実。

アテネの民主政治によって示された、ソクラテスの語る真実がある特定のポリスの真実とは異なることは当然あり得るという真実。

問4 ソクラテスの問答法によって「無知の自覚」を表明したものとして最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[26](2003年センター追試験)

ソクラテスは自ら困難に行き詰まっては、他人も行き詰まらせてしまう。これまで大勢の人々に向かって徳について私が語ってきた話は、自分では立派な内容だと思っていた。ところが、今では徳とは何かということさえ語るができなくなった。

ソクラテスという人は、いつもこうなのだ。ほとんどとるに足らないような事柄を問い返しては、相手を反駁しようとする。もし誰かが何事につけてもこの人のいうことに同意してやったなら、この人ときたら、まるで若者のように大喜びするにちがいない。

対話問答を通して議論を進めていくソクラテスの熱意は、称賛に値する。私は悪い人間ではないし、また私ほど嫉妬心から縁遠い人間はいないので、ソクラテスが知恵にかけて有数の人物の一人になったとしても、決して驚かないだろう。

ソクラテスは相手に質問するばかりで、自分の方からは何一つ答えようとしない。答えるよりも問うことの方が簡単だということをよく知っているものだから、誰かに質問されると空とぼけて、あれこれ言いつくろっては答えるのを避けるのだ。

問5 ソクラテスの問いに関する次の文中の [27] に入る語句として最も適当なものを、
下の ~ の中から一つ選べ。

ソクラテスのやっていたことから、哲学の特徴の一つが浮かび上がる。われわれは「これは善か」とか、「これは美しいか」などと気にかけることはあっても、通常、「善とは何か」「美とは何か」をあらためて定義しようとはしない。定義や本質をあえて問うことによってソクラテスは、[27] のあり方を食い破り、その外へ出ようとした。[27] の足元を掘り崩し、[27] の外へと出ようとする、これが哲学だ。

日 常 本 質 自 然 論 理

問6 ソクラテスの主知主義の説明として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[28]

善なる行動をとるためには、何が善であるかを知ることに加えて善なる意志が必要である。

徳についての正しい知識を持てば、その正しい知識に導かれて善い生き方へと向かうことができる。

人間の認識の起源は感性や情意ではあるが、知性ないし精神の思考によって善い生き方についての認識を得ることができる。

知恵と徳と幸福は一致するため、幸せな生き方をしていると感じる時、それが善であることは自明である。

問7 ソクラテスの生涯についての記述として**適当でないもの**を、次の ~ の中から一つ選べ。[29]

ソクラテスは著作を残さなかった。

アテネの名門貴族の家に生まれた。

妻クサンチッペは悪妻として名高い。

しばしばダイモニオンに憑かれたように瞑想にふけた。

第4問 次の文章A Bを読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 22)

A アリストテレスはこう述べている。

「プラトンの体系は、大部分の点で[30]派の人々に従うものであったが、しかしある独自の特徴をも持っていた。若い時プラトンは、まずクラテュロスに親しみ、[31]的な学説に親しんだ。およそ感覚的な世界は全体が常に流転状態にあって、それについてはいかなる学問的知識もあり得ない、という考え方である。そして後年に至っても、プラトンはなおこうした見解を保持していた。そして、ソクラテスは、自然的世界全体を念頭に置かず、もっぱら[32]上の問題のみに考察を限定して、この領域において(a)普遍的なものを探求し、定義ということに集中した最初の人であったが、プラトンは彼を継承して、定義の問題は感覚的な事物に関わるものではなく、別種の存在に関わるものだと考えた。感覚的な事物はつねに変化しつつある以上、それらについての一般的な定義はありえない、というのがその理由である。そうした別種の存在をプラトンは[33]と呼んだ。」

問1 文章中の空欄[30]～[33]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|---------|---------|
| [30] | [| ストア | アカデメイア |
| | | キュニク | ピュタゴラス |
| [31] | [| エンペドクレス | デモクリトス |
| | | パルメニデス | ヘラクレイトス |
| [32] | [| 文化 | 法律 |
| | | 道徳 | 文明 |
| [33] | [| エウダイモニア | ブシュケー |
| | | イデア | エロス |

問2 下線部(a)に関して、ソクラテスの追求した普遍的なものとして**適当でないもの**を、次の～のうちから一つ選べ。[34]

真 理 個 物 善 美 知 恵

B プラトンは、ただアイデアをながめ、その幸福にひたる生活に安住したのではない。もともと実践的関心のつよかったプラトンは、みずから洞察したアイデアの世界を、この現実の世界にどうすれば実現できるかについて考えた。

彼は、人間の魂を、理性・[35]・欲望の三部分にわけて考え、理性は知恵という徳を、[35]と欲望は、理性の指導のもとにそれぞれ勇気、[36]の徳をもつと考えた。そして、それぞれの部分がおのれの徳を実現するとき、魂は全体として調和を保ち、正義の徳が成り立つとした。また、国家とは個人をそのまま大きくしたものであると考え、国家のあり方についても個人の場合と同様に考えた。すなわち、国家を構成する統治者階級、防衛者階級、生産者階級が、それぞれの本分をはたして魂の三部分に相当する徳を発揮するとき、国家全体に正義が実現されるとした。したがって、(b)知恵にすぐれた哲学者が政治をおこなうことによって、正義の実現された理想国となると考えた。

プラトンの以上のような、理性でとらえられるアイデア界こそ真の世界であり、感覚によってとらえられるこの世界はその影にすぎないとする考え方は、二世界説とよばれ、キリスト教の「[37]」という考え方と結びついて、以後のヨーロッパの考え方に決定的な影響を与えることになった。

問3 文章中の空欄[35]～[37]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|----------|-------------|
| [35] | 〔 | 気概 | 性格 |
| | | 能力 | 気質 |
| [36] | 〔 | 機知 | 鷹揚 |
| | | 寛仁 | 節制 |
| [37] | 〔 | 楽園と失楽園 | 天国と地獄 |
| | | 神の国と地上の国 | 父なる神と子なるイエス |

問4 下線部(b)に関して、プラトンの国家についての思想として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[38](2005年センター本試験改題)

知恵を身につけた統治者階級が、防衛者に対しては臆病と無謀を避けるよう習慣づけ、生産者階級にたいしては放縦と鈍感を避けるように習慣づける。このようなときに正義が実現する。

一人の王の統治は、知恵を愛する王による統治であっても、つねに独裁制に陥る危険性を孕んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も徳を身につけ、民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。

統治者階級は知恵を身につけ、防衛者階級を支配し、防衛者階級は徳を身につけて生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従って徳を身につけたとき、

国家の三部分に調和が生まれ、正義が実現する。

知恵を愛するものが王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛するものが徳を身につけた防衛者階級と生産者階級とを統治するとき、正義が実現する。

問5 『国家』篇に描かれているプラトンの洞窟の比喻を説明するものとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[39]

洞窟の闇に映る影絵のように、物質的現象には実体がなく、実体がないから物質的現象であることをたとえた比喻。

洞窟の壁に映った影だけを知覚している囚人のように、人間は現象を真の实在と思いついていてということをとえた比喻。

洞窟の中では外界から遮断されているように、原因と結果の間には必然的な因果関係は実在しないことをたとえた比喻。

洞窟の中において自然の光が遮られているように、個人的な性格や環境に由来する偏見をとえた比喻。

問6 プラトンが『国家』の中で述べた国制に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[40]

優秀者支配制は全体主義に陥ってしまい、正しい国制になりえない。

少数の富者が支配する寡頭制が知を重んじる国制である。

民主制は多数者が少数者を打倒して成立し、平等と放縦が原理となる。

民主制こそが多数者の利益を実現する理想の国制である。

第5問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 20)

アリストテレスの思考の大きな特徴の一つに、言葉の多義性に注目した分析の精密さがあげられる。彼は 名辞 述語 命題 などといった根本概念を確定したうえで史上初めて (a)三段論法の定式化をなしとげ、その後の論理学の基礎をきづいた。彼は自身の説を展開する際に彼以前の哲学者の説を紹介・批判することが多いが、彼の創始した多数の用語・概念は、その場合にも威力を發揮する。彼によれば、どんな学問も第1の原理・原因を知ることによって初めて本当の知識となるのだが、自然の事象の原因となるものには4種類ある。すなわち、1.[41]因(何であるか、本質)、2.[42]因(何からできているか、素材)、3.始動因(運動変化を起こさせるもの)、4.目的因(何のためか)がそれである。彼はタレス以来の彼に先立つ哲学者たちの求めていたものがこの4原因のどれかに当たり、その範囲を出るものではないと見た。

このうちの [41] 因は、ソクラテスの 何であるか の問いと、それを引き継いだプラトンのイデア論の考えを受け継ぐものである。しかしアリストテレスは、イデア論そのものは批判し退けた。彼の [41] はそれと異なり、つねに [42] と対をなし、具体的な個物のうちに(規定の言葉(ロゴス)において以外は) [42] と切り離せないものとして結びついているものである。これらはまた [43] と [44] とにそれぞれ対応する。たとえば [42] としての木材は家の [44] であり、大工によって [41] を与えられて現実の家となる。この場合、家の [41] は目的でもあるが、自然物、すなわち運動変化の始原を自身のうちにもっているもの場合には、「人間が人間を生む」という彼の愛用した言葉が示すように、始動因(生む人間)も [41] ・目的因と一つに帰着する。彼は自然界に内在するこのような [41] と目的とを発見することのできる喜びに駆られて、生物学の分野、とくに動物学の研究に打ち込み、数百種の動物を記述して類・種による階層的な分類を行うという巨大な業績を残した。そのような生物の生育もさらに上位の天体の運動も含む自然界のあらゆる動(運動・変化)の最終的な原因(根拠)となるもの、これを彼は、みずからは動かされることなしに他のものを動かす 不動の(第一)動者 としての 神 とする。この神のあり方は、いかなる素材的要素とも無縁の純粋な知性の現実活動として語られている。今日、(b)形而上学と呼ばれているものを彼は 第一哲学 とか [A] とか呼んだが、それは 存在を存在として 普遍的に研究する学問であるとともに、このような神について考察するものでもあった。彼は、人間にとって最高の幸福は、その最も優れた特性たる知性的徳にもとづく現実活動、神の生にも似た知性の観想にあるとしながらも、通常の人間的な幸福は実践をも含めた人間の活動全体にあるとして、(c)正義・勇気・節制などの習性的徳について広範に論じ、この徳を、両極端を排した [B] において行為を選択できる心の状態だと規定している。

問1 文中の空欄 [41] ~ [44] に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。

現実態 実 体 形 相 可能態 質 料 仮 象

問2 文中の空欄 [A] に入る最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [45]

詩 学 神話学 自然学 神 学

問3 文中の空欄 [B] に入る最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [46]

カタルシス フロネーシス メソテース エウダイモニア

問4 下線部(a)に関して、三段論法の例として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [47]

すべての兄は男である。したがって、私の兄は男である。

私はすべてを疑っている。したがって、私の思惟は存在する。

あるエジプト人はギリシア語を話せない。クレオパトラはエジプト人である。したがって、クレオパトラはギリシア語を話せない。

これまで捕獲したすべてのカラスは黒かった。したがって、カラスとは黒いものだ。

問5 下線部(b)に関して、アリストテレスの著作『形而上学』に関する記述として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。 [48]

原題はピュシカ (physica) といい、『易経』にみられる「形而上」を訳にあてた。

もともと「自然学の後に置かれた諸講義案」という意味であった。

自然的存在者の分野、原理を超えた最高の原理、実在を扱う超自然学と理解される。

哲学の求めるべき知はどのようなものであるかがこの書の中心問題である

問6 下線部(c)に関して、習性的徳に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [49]

習性的徳は優れた知性にもとづくものなので教育によって習得できる。

勇気の徳は怒りっぽさと臆病の中庸によって生ずる善き性格である。

思慮という習性的徳によってすべての人は行動に中庸をもたらす。

正義は、違法な不正と過多をむさぼる不公平に反する習性的徳である。

問7 アリストテレスの「理論学」にあてはまる学問分野として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [50]

倫理学 数 学 論理学 弁論術

以上で問題は終わりです。